

姫路市下水道事業経営懇話会での 雨水排水対策事業に対する意見整理

平成29年10月

1 はじめに

姫路市では、安全で快適な下水道サービスを持続的・安定的に提供していくため、平成28年1月に「姫路市下水道事業経営戦略」を策定し、経営基盤の強化に努めているところである。平成29年度は本市の3つの最優先事業の一つである雨水排水対策事業をテーマとして、4月から3回の会議を開催し意見交換を行った。本書は、これまでの会議における意見を整理したものである。

2 意見の概要

(1) 雨水排水対策について

- ・ 今後もゲリラ豪雨が多発すると考えられ、雨水排水対策は重要度の高い事業である。そのため、市民に対して説明するとともに協力を求める必要がある。
- ・ 限られた資源の中でどのように雨水排水対策事業を実施していくのか、透明性の高い意思決定が求められる。
- ・ 過去に経験したことのないような集中豪雨が発生しているという現状を踏まえると、雨水排水対策事業については、一定のルールに従って最大限の整備を進めていく必要がある。
- ・ 雨水排水対策事業の実施や、実際に災害が発生した場合には、下水道部局だけでなく、市の他部局や関係機関と連携・協力して対応することも重要である。

- ・ 市民の安全確保の観点上、国庫補助金が交付されないから雨水排水対策事業は実施しないということもできないので、現状を踏まえた資金計画を組んで対応してもらいたい。
- ・ 雨水排水対策事業を行うに当たり、国庫補助金の範囲内で行うのかそれとも市の税金を投入してでも行うのかといった市民の合意が必要なのではないか。
- ・ 国庫補助で対応できない事業に対して税金を投入してまで早く雨水排水対策を行う必要があるのかといった意見もあるのではないか。
- ・ 近年の気候変動に対し、想定外では済まないのではないか。国庫補助金が今後少なくなることも考えられるため、国庫補助金で対応できない場合、市単独事業として行うことも検討してほしい。
- ・ 雨水排水対策事業を行ったことでゲリラ豪雨による被害が床上・床下浸水にまで至らず、道路冠水等でとどまった事例など、雨水排水対策の整備効果等について調査してもらいたい。
- ・ 雨水排水対策事業の効果を貨幣価値に換算し測定することは難しいため、費用対効果を図ることは難しいのではないか。

(2) 流域対策、減災対策について

- ・ 流域対策、減災対策も大事なので、雨水排水対策事業を行うに当たり、下水道整備や河川整備などのハード対策と流域対策、減災対策とのバランスを考慮する必要がある。
- ・ 雨水貯留タンク設置助成の取組は、市民自らが浸水を防ぐためにお金をかけ、皆で協力して浸水対策を進めることについて考える大きなきっかけになると思う。
- ・ 雨水貯留タンクを全世帯に設置しても、雨水流出を防ぐことができる効果は小さいが、水資源の有効利用などの啓発効果や雨水排水対策への市民の協力と

いった点で、この取組は重要であると考える。

- ・ 雨水貯留タンクの目的・意義、設置助成の手続、台風が来る前にはタンクを空にして豪雨に備えるよう周知するなどの広報を、分かりやすく積極的に行ってもらいたい。
- ・ 各家庭に雨水浸透ますを設置することも検討する必要があるのではないか。
- ・ 雨水浸透ます等の効果について、浸水がどれくらい減ったのかというようなことを検討することも必要なのではないか。
- ・ 市民へのハザードマップの配付等、広報のしかたについて、工夫してほしい。

(3) 事業優先度の評価方法について

- ・ 雨水排水対策事業の優先度を決めるに当たり、合理的な説明と市民の理解を得るようにしてほしい。
- ・ 実施に長期間を要する事業の着手は、早く行う必要があるのではないか。
- ・ 評価が偏らないよう、早期に事業の評価基準、評価区分を決め、工事を着実に進める必要があるのではないか。
- ・ 評価表の作成にあたり、まず6つの評価項目の優先順位を決める必要がある。
- ・ 人口密度の高いところは整備効果が高いため、整備効果に人口密度を考慮に入れてもよいのではないか。
- ・ 評価表の合計点を点数だけでなく、クモの巣グラフにした方が比較しやすいのではないか。
- ・ 下水道使用料改定の時のように評価表のパターンをいくらか示すことはできないのか。

3 まとめ

近年、ゲリラ豪雨による浸水被害が多発しており、雨水排水対策は重要度の高い事業である。姫路市では市街化区域の雨水基本計画の見直しはすでに完了し、平成31年度に全市の雨水計画の見直しが完了する予定である。その後、優先度をつけて雨水排水対策事業を実施することを姫路市は考えている。

しかし限られた資源の中でどのように事業を実施していくのかいろいろと課題があり、透明性の高い意思決定が求められる。そのため、雨水排水対策事業の優先度を定めるに際し、合理的な説明と市民の理解を得るようにしてほしい。